

# 発達障害の理解と対応

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」  
副センター長 林 康治



# はじめに…

「世話がしにくい」「困った行動が多い」と感じさせるお子さんがいます。その背景には、「発達障害」またはその傾向がある可能性があります。

この講座では、援助会員として関わるうえで知っておいて頂きたい知識と、お子さんへの関わり方についてお話をします。「発達障害」とくに自閉症スペクトラムのお子さんへの関わり方は、いわゆる健常のお子さんにとっても、わかりやすい関わり方といわれていますので、是非、今後の支援にお役立て頂ければと思います。



# 「げんき」の説明

## 世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」 関係機関マップ

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」と子育てステーション発達相談室は、世田谷区在住の発達障害、またはその疑いがある方、ご家族、関係機関を支援しています。「げんき」と発達相談室は、ともに協力して地域に根差した施設を目指しています。



# 「げんき」の機能（概要）

## ○「げんき」の位置づけ

世田谷区の発達障害支援における中核的拠点

## ○「げんき」の機能

◆相談・アセスメント及びフィードバック

◆療育

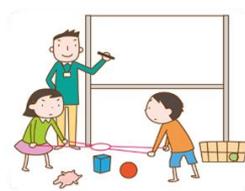
◆地域支援

・障害理解促進

・連携の基盤づくり

・保護者、家族支援

・関係機関支援

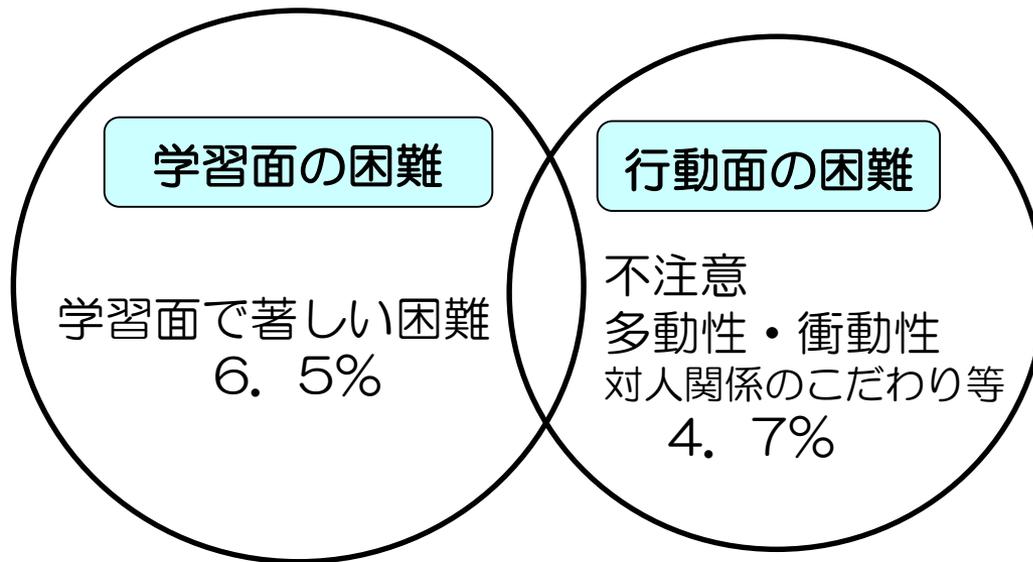


# 発達障害とは (かいつまんで言うと…)

- しつけや、育て方によるものではなく、  
生まれながらの特徴 (原因はまだ十分に分かっていない)
  - 「脳の働き方」に通常とは違う特徴が出る
  - 物の理解の仕方や、話し方、体の動かし方や反応の  
仕方、社会性の発達に影響が出る
  - 障害の状態は、年齢を重ねたり、周りの人の関わり  
方で、変わって (成長して) いくが、基本的には  
特性が一生残っていく
-

# どれくらいいるの？

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」より  
(文部科学省 2022)



↓

学習面または行動面に著しい困難を持つと担任教師が回答した数

↓

**8.8%**  
(小・中学校)

(※知的障害を伴わない)

35人学級なら3人くらい

# どこからが障害？

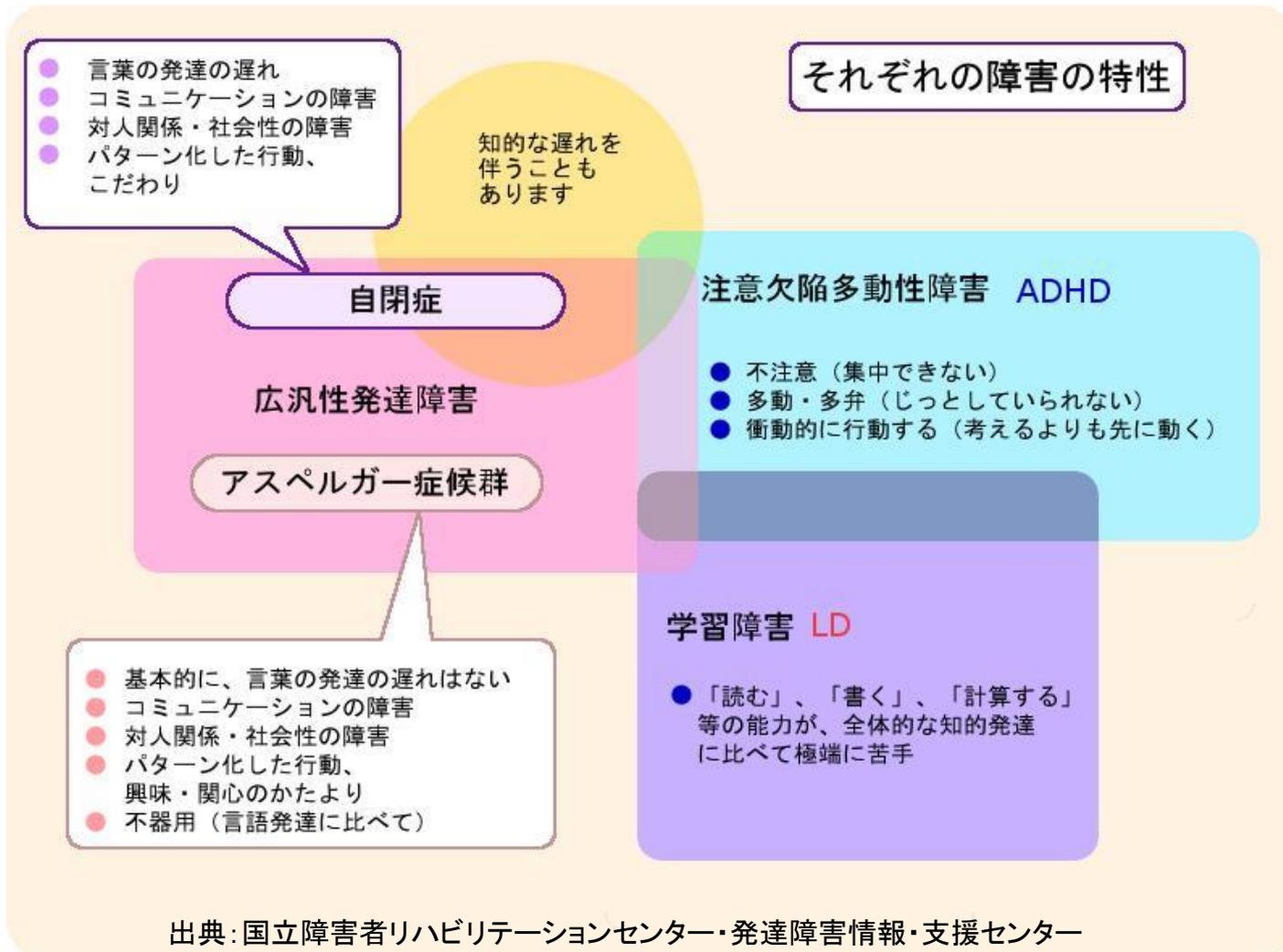
世田谷区作成資料より

- スペクトラム = 連続体

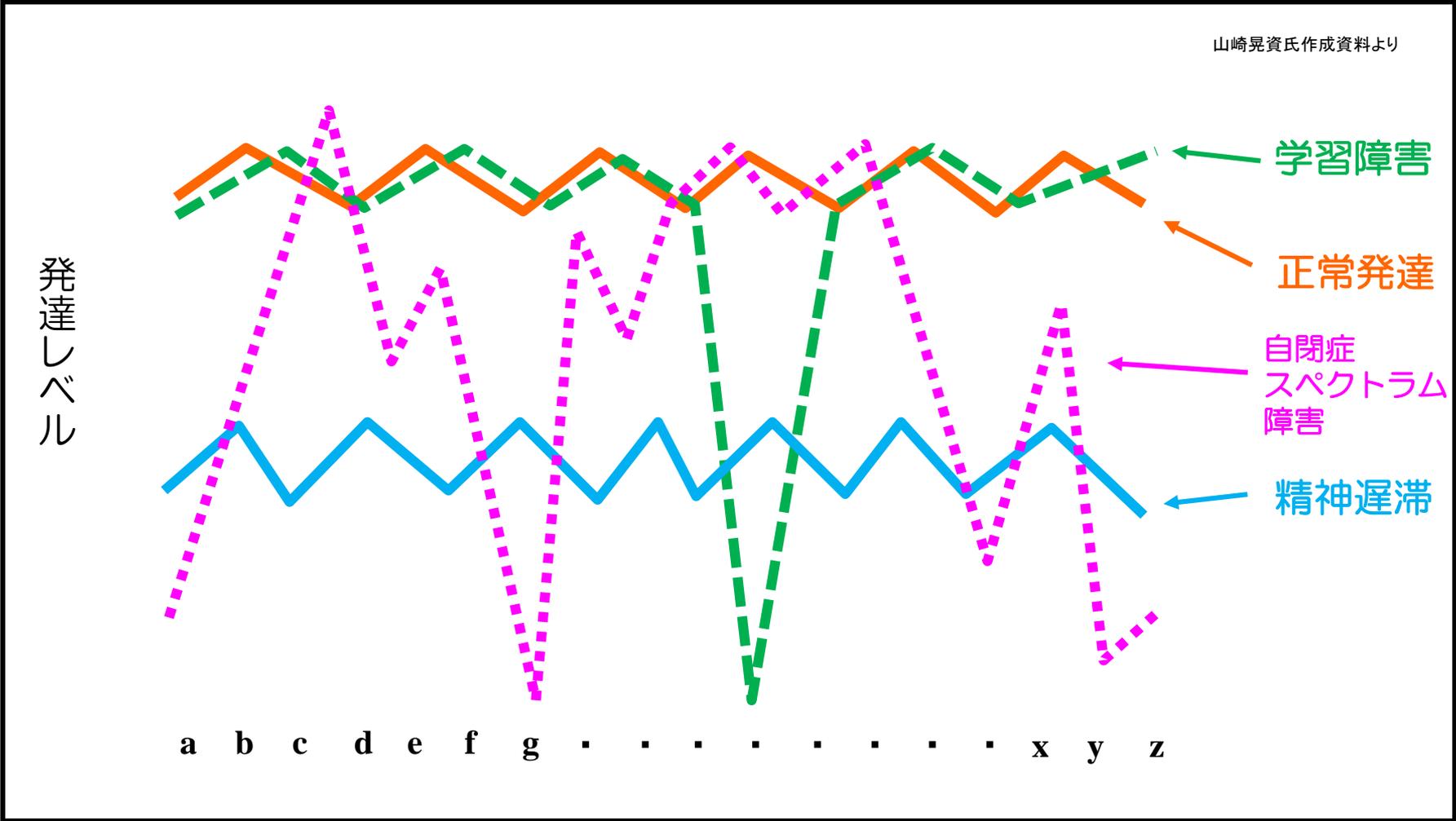
どこからが「障害」という線引きはない



# 発達障害は重なり合います



# 発達障害のパターン



自閉症（自閉症スペクトラム障害）  
（自閉スペクトラム症）　とは？

---

# 自閉症（自閉症スペクトラム障害） （自閉スペクトラム症）とは？

- 人と上手に付き合うことが苦手
- コミュニケーションをうまくとることが難しい
- こだわりがある、興味関心にかたよりがある

\* 知的障害の有無とは関係ない

\* 他に関連するものに、

感覚の過敏、動きのぎこちなさなどがある

# 人と上手に付き合うことが苦手

例えば・・・

- 暗黙のルールやその場の雰囲気がよくわからない
  - 相手がどう感じているかがよくわからず、必要ないことや失礼なことを言ってしまう
  - 相手によって言葉遣いや態度を変えられない  
（変える必要があることの意味がよく分からない）
  - 自分の言動が相手にはどう見えるか、どう思われるかが、よくわからない
  - 悪気なく、場にそぐわない発言や行動をよくする
-

# コミュニケーションの障害

例えば…

- 相手が興味を示していないのに（それに気付かず）、自分の興味があることばかりを一方向的に話す
  - まわりくどい、不必要なほど説明が細かい
  - 普段はよくしゃべるのに、必要なことが言えない
  - 話し言葉や、言葉以外の合図（表情、身振りなど）を読み取ることや、自分から示すことが苦手
-

# コミュニケーションの障害

- ことばの「裏の意味」がわからない（皮肉など）
- 冗談やたとえ話を文字どおりに受ける、真に受ける
- 「だいたい」「適当に」「このくらい」がわからない

# こだわりがある、 興味関心にかたよりがある

例えば…

- こだわりが強い、変化が嫌い
  - よくわからないといつもと同じにする、いつも同じにすることに固執する
  - 一度決めてしまうと融通が利かず、不便でも変更しない
-

# こだわりがある、 興味関心にかたよりがある

- すごくよく知っていることがある割には、常識的なことがわからない
  - 興味や関心がかたよっている
  - 急な変更が苦手で、ひどく戸惑ったり動けなくなる
  - 臨機応変に対応することが、とても苦手
- (例) 急な通行止めって、そんなに動揺すること？

# その他の特徴

## 感覚の過敏さ、鈍感さ

- 音、光、味、食感、におい、触感などの「感覚」に極端に過敏（または極端に鈍感）
- 他の人が気がつかなかったり、気になるほどではないものでも、本人には苦痛な刺激となることも。  
(テレビなどの画面の明るさ、蛍光灯のちらつき、雑踏などのザワザワした音、わずかなにおい、特定の食感 など)
- 極端に鈍感な場合、自分の体の異変を見逃すことも。

## 不器用さ、体の動かし方のぎこちなさ

- 手先が不器用
- 体の動きが硬い、どことなくぎこちない など

# その他の特徴

例えば…

- 極端な偏食  
(同じメーカーのものしか食べない、調理法がちょっとでも変わると食べない、など)
- わずかな音でも気になり集中できない
- スーパーや駅前など、人がたくさんいるところが耐えられない
- わずかに触れられたただけなのに、ものすごく驚いたり痛がったりする
- 大けがをしているのにさほど痛がる様子がない
- 発熱、脱水、空腹などに気付かず倒れてしまう  
など

※これらの特徴の出かたには個人差があります

# 自閉症（自閉症スペクトラム障害）のひとは

- 学習能力（記憶）はむしろ高いタイプの人も多い
- できることと苦手なことの差が極端なことが多い  
…さぼっているのでは、と誤解を受けるかも

# 自閉症（自閉症スペクトラム障害）のひとは

- 通常は「いつの間にか、自然と」身につけることも、習得するための準備や練習が必要なことが多い ←ここがわかりにくいポイント
- …すごく難しいことは（学習したから）知っていても、“普通”のことはできない（教わったり学習する機会がなかったから）可能性がある
- …普通そんなことは教わらなくてもわかるはず、という目で見ると、困っていることが見えにくくなることも

注意欠陥/多動性障害  
(注意欠如多動症) (AD/HD) とは？

---

# 注意欠陥/多動性障害

## (注意欠如多動症) (AD/HD) とは？

- **不注意**

物事に注意を向けたり、集中し続ける事が苦手  
外からの刺激によってすぐ気が散ってしまう

- **多動性、衝動性**

落ち着きがなく、じっとしてられない

手足をそわそわ動かしたり、しゃべりすぎてしまう

順番が待てない

質問が終わる前に、だしぬけに答え始めてしまう

…などの特徴がある

➤ 注意力をバランスよく配分することが難しいと…



ひとつのことに注意を集中できない

(周囲の刺激に気を取られるため)

過剰な集中

(周囲のものへ注意がむけられないため)



- 音、匂い、見えるもの等にすぐに気を取られる
- 何かに夢中になると、周りのことに全く気付かないほどのめり込む
- 忘れ物、なくしものが極端に多い
- (やる気はあるのに) 整理整頓ができない など

➤ 刺激を自動選択することが難しいと…



いろいろな刺激を同じように感じてしまい、  
気になり、動いてしまう



何か見えたり聞こえたりすると、  
反射的にすぐに確かめに行ってしまう

---

➤ 刺激への運動的な反応がやすいと…



行動や感情などの「反応」を抑えるのが困難



- 後先を考えずに発言したり、相手の話を十分聞かないで行動し始める
- 本気で反省するが、すぐに同じことを繰り返す
- 唐突な行動が多く危なっかしい
- 人の話の途中ですぐ口を挟む、突然しゃべりだす、話があちこちに飛ぶ など

# 注意欠陥/多動性障害のひとは

- 本人もどうにかしたいと思っても、自分の努力だけではコントロールできないことも多い
- 行動上の問題が表面に表れやすいため、叱られたり批判されることが多く、自尊心が下がりやすい
- 自尊心が下がることで、さらに行動のコントロールが悪くなり、ますます叱られるという悪循環に陥りやすい
- 気が散りやすいと思ってたら、すごく集中できる時もある（過集中）  
→やる気の問題と思われやすい

---

# 学習障害（学習症） （Learning Disorders : LD）とは？

---

# 学習障害（Learning Disorders：LD）とは？ （学習症）

- 全般的な知的な遅れはないが、特定の能力（読む・書く・計算する・推論するなど）を自然に身につけていくことが困難
  - 一見何の問題もないように見えてしまう（その他の能力に問題はないため）
-

# 学習障害のひとは

- 「話せるのに読めない」「数えられるのに計算ができない」  
→ “わざとやらない” “努力していない” など  
誤解されやすい
- 本人たちも、なぜできないかがわからない、努力しているのにできるようにならない、できない自分を他人に知られたくない…  
→ 自己評価の低下、学習場面を避けたがる

# 子どもへの対応を考える前提として…

もちろん、

「このような特徴のある人はすべて発達障害である」  
というわけではない

でも、

こういう特徴で本人も周囲も悩んでいるときや、  
いろいろ努力はしているのにうまくいかないときは、  
「発達障害」または「その傾向がある」かもしれないと  
いう観点（こういうことが苦手な、生まれ持った特徴、  
タイプ）で考えてみると、解決のヒントが見えてくるかもし  
れない

# 関わり方のポイント①

- 注意を引いたり、名前を呼んでから話しかける
- 話をしっかり聞いてほしい時  
→できるだけ刺激の少ない静かな場所で話す
- 余計な刺激は制限する（環境調整）
- 指示はひとつずつ、短く簡潔にすること
- 予定変更は予め伝える。静かに優しくわかりやすく
- すぐに了解できないときは、何回か繰り返し、  
納得するのを待つことが必要な場合もある
- 移動や何かの行動を始める前に、行き先、この先なにを  
するのか、どうなるのか、などの見通しを伝える

## 関わり方のポイント②

- 言葉だけでなく、写真、絵、文字に書くなどの視覚的な伝達手段を用いると伝わりやすいことが多い
- 否定語を使わずに、肯定的、具体的に伝える
- 「……しないと~~できないよ」ではなく、「……したら~~しようね」と伝える
- 待たせなければならない時は、基本的に長く待たせない工夫をすることが必要。待たせる時は、なにか気持ちを向けられるものを手に持たせる
- 混みあった所にはなるべく近づけないようにする

# 肯定的な言葉かけて？

- 「ここには置かないよ」 →どこに置いたらいいの？

↳ 「〇〇に置いてね」

- 「走らないよ」 →どうしたらいいの？

↳ 「歩こうね」

- 「今はだめだよ」 →いつならいいの？

↳ 「〇〇にやろうね」



# 発達障害であってもなくても

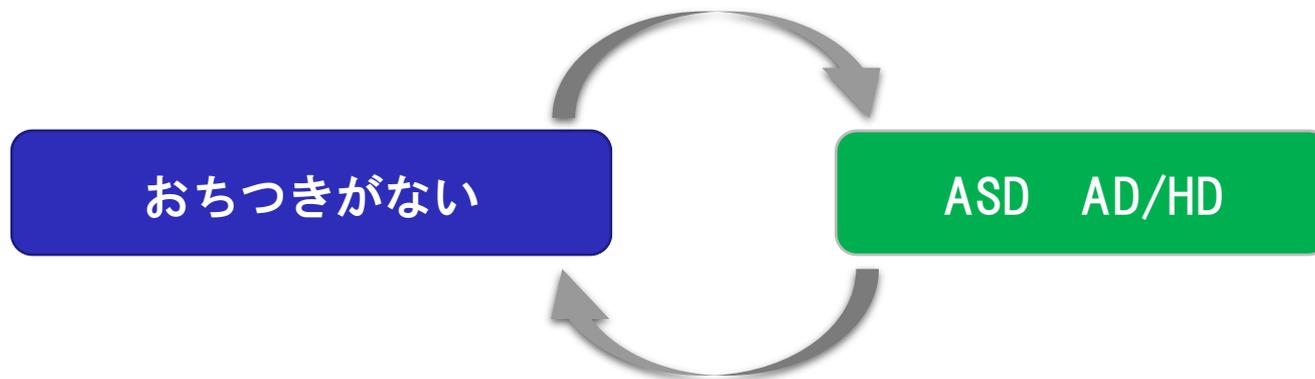
- 先に説明した通り、発達障害によって「苦手」が生まれる可能性はある。
- しかし、人によって得意不得意（脳や身体の向き不向き）があるのは、誰でもそう。
- 苦手なことを血のにじむような努力で補えばいいかもしれないが、
  - 「うまくいく場面（得意なこと）を活かす」
  - 「苦手なことをうまくかわす方法を見つける」この二つの方が合理的
- 発達障害であってもなくても、その人自身を理解することが大切。

# 発達障害を「知る」ことと

## その子を「理解する」ことは別物

「発達障害」の特徴や症状を「知る」ことは、「そうだったのか」と納得、安心できることも。

しかし、人にかかわる仕事をする人間にとっては、落とし穴がある。



循環論に入ってしまった時点で、その人への「理解」が止まってしまう。

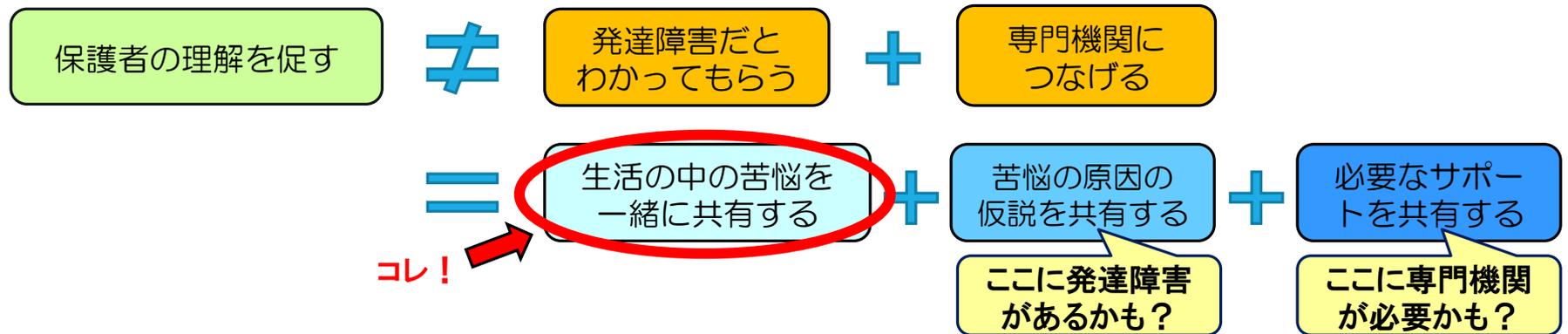
個人の特性や特徴が、どのくらい生活に負担をかけているのかが「理解」につながる。

保護者と接するにあたって

# 共有することが大切

(保護者に教えること、気づかせることではなく...)

これまでの話を前提とするならば...



みなさんにしていただきたいのは、本人や保護者の「つらい」「こまった」を共有すること  
その下地があれば、他の立場の支援者とのつながりも生まれやすいはず

# 保護者と話すときのちょっとしたコツ

- 保護者をねぎらう  
「ファミサポを活用しようと思ったことが Good」  
「誰かに頼ることは悪いことじゃない」
- 「あるある話」
- いいこともわるいことも、子どもの相互理解、  
→共有につながる。
- いいことから話す、心配ごとはつけ足す  
(例) 「好奇心があって、なんでも質問してくれますよ。  
周りが見えなくなるときもあるみたいだけど。」
- 自分の立場と互いの関係を忘れない
- 自分にできること、できないことの線引きをあらかじめ  
明確にしておきましょう

# 地域の中で過ごしていくために

発達障害に限ったことではないですが、生活する地域の中で「孤立する」ことがもっとも危険な状態です。「よく分からないけど、発達障害の人は怖い」「どう関わったらよいか分からない」といったイメージが孤立を加速させる一因になっているかもしれません。

ライフステージごとに生まれてくる、お子さんや家族の困難感に対して、今回お話したことが、みなさまの「理解」の一助となれば、ひいては、地域の方々の「理解」に少しずつつながっていけば幸いです。



ご清聴ありがとうございました

